

### Ⅲ. 自由記述

---

## 1. 親（大人）の教育力に関すること

- ・義務を果たしていない大人が多い。他人任せにしている親が多い。
- ・子どものことより、自分のことを優先する親が増えている。
- ・親は過保護にならず、社会生活に必要なルール、マナーを家庭内で指導する必要がある。
- ・親が自覚を持ってしっかりと家庭教育をすべきである。
- ・親が子育てについてきちんと学ぶ機会が必要。
- ・保護者の意識・認識が同じ事が望ましい。地域性もあるので学習会などに積極的に参加すると良い。
- ・親も子もコミュニケーション能力の低下が心配。関わる大切さ、育児は親だけではできない。
- ・親がしっかりしていれば子どもは自然に良くなる。
- ・悪い事は悪い、良い事は良いとはっきりとした判断を大人が見せる。
- ・マナー、ルールを守っていない子どもを注意しない大人が多い。
- ・子どもは、親、大人の真似で日々成長する。よい手本になるように、2度ない人生「楽しみながら」子育てをしてほしい。

## 2. 大人のマナーに関すること

- ・子どもの教育以前に大人のマナーの悪さを見直さなくてはいけない。
- ・大人自体が幼稚化し子どもの手本になれていない。
- ・東京から来たが、新潟は社会生活のルールやマナーが悪いと思う。
- ・犬の散歩をしていると、ときには道路に大きな糞が捨てたままになっている。
- ・ルールを守らない親も多い。子どもは親の背中を見て育つ。
- ・新潟市は環境的にのどかで子育てには良いが、親のマナーが悪い。交流も限定的で閉鎖的。

## 3. 親の時間・ゆとりに関すること

- ・経済的に働かなくてはならず、仕事と家庭の両立が難しい。
- ・核家族化、景気低迷による賃金の減少や労働時間の長さなど、親に余裕がなくなっている。
- ・親を含む大人の社会全体が精神的、経済的にゆとりがなく子どもを育む環境が劣化してきている。社会全体の底上げがないと子どもを育む良い環境づくりは難しいと思う。
- ・仕事を持つ母として子育てを優先したいが難しい環境であると感じている。
- ・親、PTAの役割、地域が親に期待する事が多過ぎる。
- ・望む生活水準が高く、そのための労働で忙しく、ゆとりある生活ができていない。

## 4. 親子の関係・コミュニケーションに関すること

- ・親が過保護すぎる。
  - ・自分の子どもに無関心の親が多い。
  - ・子どもには個室があり家族で過ごす時間が少なく、コミュニケーション不足だと思う。
  - ・親と子の関係が濃過ぎる。自分の子ども以外にも関心を持てる機会があると良い。
  - ・大人の好みの子どもにしてはいけない。
  - ・親はもっと子どもを信用する。出来ることを出来ない子に育てているのは親自身。
  - ・テレビを見ないで今日一日の話をして夕食を取ることは必要だと思う。
  - ・子どもたちも塾、部活などで忙しく家族で過ごす時間が少ない。
-

---

## 5. 地域全体で子どもを育てることにすること

- ・子どもは、親、地域で協力して育てていくもの。子どもも地域と触れ合っただくさん経験してより人間として成長できる。
- ・子どもがよい事をすれば誉め、悪いことをすれば叱る。普通のことを大人がすればよい環境が出来る。
- ・地域全体で子どもの成長を見守って声を掛けてあげられたらいい。
- ・家族同士が互いに子どもを預かってもらえる関係が地域にあるといい。
- ・部活動を支援していると、チーム全体の子どもの世話をしたり成長を見守ったりしている。
- ・親の目から見る子どもも大事だが、周囲の意見を聞き入れ、受け止めることも必要。
- ・子育てを終え、気持ちにゆとりが出来た年齢だからこそ提案できることもある。
- ・学校・家庭・地域において、子どもは人として平等であり人権を尊重しなければならない。
- ・世の中全体で考え方を直さなければいけない。家庭、地域ももっとしっかりするべき。
- ・大人たちが子どもをしっかりと見守らなければと改めて思った。
- ・集団活動を通して地域社会のためになる人間に育てることが、地域社会に住んでいる大人の義務。

## 6. 核家族化・近所・親同士のつきあいに関すること

- ・家庭の中で子どもをより良く育てるためには、親が地域の中で孤立しないことが大切。
  - ・核家族化、都市化による人との交流不足で地域で育みづらい環境になっている。
  - ・地域で子育てすることは大切だが、アパート、マンションが多く新たなネットワークは難しい。
  - ・子どもが少なく、親が働いている家がほとんどで大人同士の交流がない。休日は家族で外出することが多く地域の方と顔を合わせる事がない。
  - ・町内での交流があれば良いと思うが、自分から言い出すのも気が引ける。
  - ・大家族時代にあった良い面（祖父母が持っていた子育ての知恵、高齢者への思いやりなど）が子どもの周りから消えてしまった。
  - ・昔ながらの地域環境、役割を求める事は難しい。
  - ・昔の良さ、今の良さを踏まえて時代に沿った、過ごしやすい地域を期待する。
  - ・自分自身が地域の問題などに関心が低い事に気付いた。今後は少しでも地域との関わりを持つ努力をしたい。
  - ・1、2時間でも赤ちゃんと離れるだけでお母さんたちは楽になれる。
  - ・核家族が多く、親も子どもも集団で育つことが大事だと分からない。
  - ・高齢者との関わりで子どもが身に付けることもある。
  - ・近所が心配し合い年齢を超えた付き合いが出来るといい。
  - ・世代を問わず集える場、誰でも気軽に寄れる憩いの場所、施設が近くにあるといい。
  - ・地域の子どもの出来ることがあればと、若い人と交流を持つよう努力している。
-

---

## 7. 安心・安全に関すること

- ・ 安心、安全な地域社会を住民自身が築く気持ちが大切。そこから輪が広がり助け合う。
- ・ 治安が悪いと親も他人も強く警戒する。治安の改善が当面の課題。
- ・ 知らない人＝不審者という意識が子どもにあるのは仕方ない。まずは大人から挨拶をし、顔を覚えてもらうよう歩み寄って行くことは大切。
- ・ 通学の際、安全を見守るボランティアが少ない。
- ・ 幼い子どもだけで公園に行ったらしゃいと言えなくなってきた。
- ・ 子どもが安全で住みよい環境の中で健やかに生活できるようにするのは大人の責任である。

## 8. 住民どうしのつながりに関すること

- ・ 横のつながりはとても大切に思うので、時には何か一つになれるものがあるといい。
- ・ 周りの人たちを気遣ったり気軽に声を掛け合ったりできる環境づくりが重要。
- ・ 学校のグラウンドで誰でも参加出来る恒例イベントがあれば、親同士も顔見知りになれ楽しめる。
- ・ 子どものつながり→親のつながり→地域のつながりへと発展する。
- ・ 人とかかわる事が楽しいと思える場がたくさんあると良い。
- ・ みんなが集まる、遊ぶ場所があれば自然とつながりが出来てくる。
- ・ かしこまった交流の場より遊びを通して交流が進むような環境をつくる。
- ・ 地域と関わっていくにはまず挨拶が出来ることだと思う。
- ・ 近所の年上の人から教えられたことの大事さを感じる。地域の中で交流出来る場は必要。
- ・ 親同士、地域の人たちどうしのコミュニケーションがないと子どもにも目が行き届かない。
- ・ 地域の自治会で結成されたよさこいチームで、地域の子ども、大人の人達と関わり楽しく活動している。顔の分かる人が地域に増えると明るく楽しくなってくる。

## 9. 子どもの遊び場・様子に関すること

- ・ 子どもが遊ぶ場が少ない。
  - ・ のびのびと遊べる場所をつくってやりたい。
  - ・ 子どもが集まる場所をつくり大人が余り手を出さない。子どもだけの組織の中で人間関係は育まれる。
  - ・ 学校の校庭などで自由に遊べる雰囲気がない。
  - ・ 中学生が体を使って遊ぶ場所がない。ボールを投げたり蹴ったりする場所が少ない。
  - ・ 子どもたちは塾や習い事に忙し過ぎて遊ぶ暇がない。
  - ・ 学校から帰って来た子どもの遊ぶ姿が全く見えない。公園で遊ぶ児童をほとんど見かけない。
  - ・ 家の前の道路で同じ友達とだけ遊ぶ姿が気になる。車の通りが激しく、事故に合わないか心配。
  - ・ ゲームやネットなどに依存せず、外に出て遊ぶようになればと思う。
  - ・ 今も昔も子どもは外で遊ぶことが好きだし、子ども同士で遊ぶのも好き。もっと外遊びをさせてあげてを親自身が自覚を持たなければと思う。
  - ・ 公園や空き地で子どもたちだけでコミュニケーションが取れる地域社会であればいい。
  - ・ 安心、安全な公園が少ない。あったとしても車でわざわざ行かなくてはならない。
  - ・ 一人一人が個性ある人間になってほしい。
  - ・ 子どもがいじめや悩みで一人苦しむことがないように、心も体も健康でいてほしい。
-

---

## 10. 地域の子どもと接する機会に関すること

- ・ 地区全体が子育て期を終えると近所から一斉に子どもがいなくなり、どのように関わればいいのか分からない。
- ・ 子どもがいなくて働いていると学校行事も分からず興味がないわけではないが関わるのが全くない。
- ・ 毎月1～2回、学校便りやPTA便りが届き、良い事と思っている。
- ・ 通学時に戸外で会って挨拶をする子を見ると、とてもうれしい。
- ・ 子どもには「照れ」がある。親ではない分、子どもの立場にも立てるので「挨拶しない子」と誤解しないように見ることができる。
- ・ 「子どもを注意すると親に恨まれる」「子どもは知らない人に声を掛けられたら無視する、逃げる」という時世。注意できないのも現状。
- ・ 大人が子どもに気を使い過ぎている。親でなくても大人として言わなければならないことは言おうと思う。
- ・ 自分の子どもが他人から注意や指導を受けたら親として感謝し、恨んだり拒否したりするべきではないと思う。
- ・ 子ども心に届くような愛情を掛けることが大切だと思う。
- ・ その子のためを思って接することが大事なことだと思う。
- ・ 子どもが、家族や先生、地域の人達にいつも自分は見守られていると感じることができるといい。

## 11. 体験に関すること

- ・ 小学生から大学生まで、小さい子どもに触れるなどの実体験が乏しい。
- ・ 今の子どもは生活体験がなさすぎる。面倒でも年齢に応じた手伝いをきちんとさせる。
- ・ 小さい頃から、いろいろな人と触れ合い（人種、ハンディキャップ）感情を豊かにする。
- ・ キャンプなどの自然に親しむ機会を積極的につくる。
- ・ 子どもを守るばかりでなく、子ども自身が普段の生活を通して「五感」を鍛える事が出来ればと思う。
- ・ 自然の中で体を使って自分で工夫して色々な体験をしてほしい。
- ・ 人との接し方、食べ物に対する事など料理教室では体験を通じて人々が交流することができる。

## 12. 地域の文化・歴史に関すること

- ・ 自分の生まれ育った土地を誇りに思えるような活動があるといい。
  - ・ 住んでいる地域の個性を理解し、誇りと愛着を持つことで将来、自発的に地域の為に貢献しようという気持ちを育むことが出来ると思う。
-

---

### 13. 地域活動への参加に関すること

- ・ 日頃の生活にゆとりがないと実行は難しい。
- ・ 学校の役員や地域の役員に選ばれると、仕事をしながら、家庭との両立で荷が重い。
- ・ 子どもがいないため積極的に考えていないが、ボランティア団体としてスポーツ支援などで活動している。地域の方々とも協力しながら今後も活動していきたい。
- ・ 子どもも塾や部活などで忙しく、家族で過ごす時間も少ないのに、地域への参加は難しい。
- ・ 親と一緒に地域活動に参加していけば子どもは安心して社会に出ていける。
- ・ P T Aの役員になり、役員が面倒などの理由で参加しない人の多さに気付いた。参加して地域の人とのつながりや色々な体験が出来てよかった。
- ・ 地域全体での大人同士の人間関係が必要。そのためにも地域の活動にはこれからも参加していきたい。
- ・ 今回のアンケートをきっかけに何か手伝う事があったら参加していきたい。
- ・ 童謡、叙情歌を歌うサークルを作っている。子どもと、楽しく歌い、心に残る歌を伝えられたらいい。
- ・ 保育園や小学校などの行事に親や地域の人に参加出来る機会を増やす。
- ・ どのように参加したらよいか分からない人も多いと思う。子どもと触れ合うようなグループや、行事、機会を作って大人を引っ張り出す。

### 14. 自治会・子ども会活動などに関すること

- ・ 地域の自治会などで行っている通学時の支援活動は働いていると負担。
  - ・ 自治会の行事なども親子で参加という行事が多くなった。休日が合わなく参加しづらい人もいる。
  - ・ 子ども会などで高学年の子どもが主体となり行事を企画運営するような場面が減ったと思う。
  - ・ 子ども会のような地域の活動が少ない。地域の大人はもっと子どもと関わっていかなければと思う。
  - ・ 子ども会活動は、親も休みを返上して活動するのは大変だが、子どもには良い思い出になる。
  - ・ リーダーシップを持ってやる方がいない。
  - ・ 子どもが少なく何を行うにしても盛り上がらない。
  - ・ 地域でキャンプなどに行くことで、近所と顔なじみになり安心した地域づくりが出来ていくと思う。
-

---

## 15. 行政や企業、学校、地域の団体への要望など

### 行政に関すること

- ・新潟市はもっと子ども、育児をする親、教育の場にお金をかける。国が駄目なら新潟市から発信する。
- ・若い世代や子どもが少なく、地域に活気がなくなっている。子どもを増やす支援が必要だと思う。
- ・思うように保育園に子どもを入れられない。働く母親が安心して預けられる環境づくりをしてもらいたい。
- ・保育園には日曜保育があるが小学校になく日曜・祝日に子どもを見る人がおらず、働く事ができない。
- ・子ども医療費助成の所得制限を撤廃する。予防接種の自己負担額を軽減して健康な子どもや病気予防意識の高い親が増えてほしい。
- ・家庭における教育について学習の場・機会をもっと設けてほしい。
- ・思いっきり遊べる場所をたくさんつくってほしい。
- ・大きい子と小さい子が危険のない様にそれぞれ遊べる施設を望む。
- ・自然の中で季節を感じながら体を動かし楽しめる公園づくりをしてほしい。
- ・公園を管理運営するサークルなどを各地域でつくり管理運営を委託するなど、安心して遊べる環境づくりに目を向ける。
- ・行政は地域の実情に合わせた支援を。形ばかりやりましたというものが目立つ。
- ・個々の家庭に深入りはできないが、自治会には、ある程度の情報提供をして子育て世帯を地域で支えるとよい。
- ・行政が親子の交流の場を積極的に提供することは必要。
- ・社会は多様な価値観を持った人々が生きていることを子どもが学ぶためにも、地域の人々と子どもを結び付ける施策が必要。
- ・合併で行政区域が大きくなり、地域そのものを知らない子どもが多い。区単位で地域を知る親子の会などを年2～3回開催し、地域の歴史や産物など勉強しあうことも必要。
- ・公民館は地域の活動に積極的に手を貸して子どもとの関わりを増やすようにする。
- ・公民館や公共施設でのサークル活動や悩み相談などの情報が送られてくると気軽に申し込める。
- ・経済的事情で習い事や塾に通えない子どももいる。学習を見るボランティアや、体操、水泳、絵画、料理、ピアノ、英語などを学べるための援助があるといい。
- ・反抗期、思春期など具体的な悩みについて専門知識のある方に相談できる所があるといい。

### 企業に関すること

- ・仕事を持っていると地域行事には参加しづらい。企業などの理解が必要だと思う。
  - ・会社の地域ごとに保育施設があるなど、共働きしやすい環境づくりをするといい。
  - ・有給休暇を子育てで優先的に取れるような社会づくりも必要。
  - ・親が働く姿を子どもが見学する事も考えてみてはどうか。
-

---

## 学校に関すること

- ・ 今一度、学校単位での活動を見直してみてもいい。家庭と学校の小さな所から地域を変えていく。
- ・ マンモス校では、子どもの顔や名前を覚えることが出来ない。スリム化すると地域で何かを起こすことが出来るのでは。
- ・ 先生たちが、放課後のスポーツ活動などの指導に参加しないと、子どもの心に入り込めない。
- ・ 親はもっと学校や教師を信頼し、学校は親に自信や責任、勇気を与える。
- ・ 学校はマスコミやモンスターペアレントに過敏にならず本来の教育現場としての使命感、愛情を持って厳しく導いていくべき。
- ・ 学校教育の場で本腰を入れて心の教育を進めてほしい。

## 地域の団体に関すること

- ・ 子ども会がうまく活動できるように考えてもらいたい。
- ・ 自治会などで子どもと大人が交流出来る機会を多くつくる。
- ・ 元気な高齢者に通学時の見守りをしてもらえると、子どもにも思いやりの心が生まれると思う。
- ・ 自治会館などを利用して親子で参加出来る映写会を開く。

## 連携に関すること

- ・ 地域ごとに統一したグループなどの組織をつくり連携して育成に努める。
- ・ 学校や地域が抱える問題を共有して、共に解決していける方法を考える情報が欲しい。
- ・ 学校での課外授業、部活などは教育の一環として学校側でやり、地域で支援したら良い。
- ・ 学校と市が連携して不審者情報やインフルエンザなどによる情報をメール配信してほしい。
- ・ 家庭や地域は学校の教育現場にもっと関心を持ち、参加しサポートしていく姿勢が必要。
- ・ 子どもだけでも通える範囲で無料の室内施設があれば、休日には親もついていく。体験教室なども定期的に行い、市と民間で共同運営出来たら活気ある町になる。
- ・ 少子化と地域のつながりが薄くなっていることを解決していくには、行政、地域、その他の協力、連携が不可欠だと思う。

## その他、全般に関すること

- ・ 行政・企業が残業を廃止させ、親子がコミュニケーションを取れるようにしてほしい。
- ・ 地域の子どもの地域の高齢者などに面倒を見てもらうような施設や制度があればと思う。
- ・ 地域で活躍するトップマンを招き、感動と高い目標を実感してもらえれば知育は広がる。
- ・ 見識者と当事者（問題をかかえた家族など）を含め、幅広く議論する場を設定する。
- ・ 地域のサポーターとして団塊の世代層の活用は新たな力になる。
- ・ 子どもへの虐待も、周囲の大人、市、県で防止に努めるべき。

※以上、一部抜粋

---